

みんなの畑 ～住民の願いを叶える取組～

加美町社会福祉協議会では、地域住民や地元企業の協力の下、デイサービス利用者の願いから生まれた「みんなの畑」プロジェクトを、令和6年度から始動しています。その取組について、加美町社会福祉協議会の生活支援コーディネーターとして地域住民への支援に携わっている、今野大さんにお話を伺いました。



▲ボランティア友の会（前列の4名）
左から相澤さん、大類さん、吉岡さん、加藤さん

収穫した野菜は、デイサービスセンターで昼食の食材として活用しています。現在は、芋煮会に向けて白菜や人参を育てています。

「みんなの畑」プロジェクトは、誰でもいつでも好きな時に来て、畑仕事をするもよし、お茶っこ飲みをするもよし、地域の高齢者や子どもたちなどの多世代が、気軽に集まって交流できる場を作ることをコンセプトに、小野田西部デイサービスセンターに隣接する町有地を借りて始めました。

ボランティア友の会の皆さんが、不定期で草取りや水まきなどの畑の管理をしてきています。このプロジェクトを盛り上げるため、ボランティア友の会の皆さんからの提案でお花を植えてみるなど、利用者や地域住民が楽しめるよう日々試行錯誤しています。

Q 取組の内容について教えてください。

Q みんなの畑ができたあがるまでの経緯を教えてください。

きっかけは、ケアマネジャーからの「70代のデイサービス利用者が、年代の違う利用者とは共通の話題が少ないと言っている。自宅で畑作業をしたいが、ご家族が心配するので、できないようだった」との相談でした。それならば、デイサービスセンターに畑を作り、利用者だけではなく、地域住民が誰でも集える場にしようという方向性で進めることになりました。

町役場や区長、地域住民など多くの方々が畑の基礎作りから積極的にご協力くださいました。意外だったのは、地元企業が地域貢献活動に積極的だったことです。「みんなの畑」のおかげで、企業との新たなつながりも生まれました。費用面では、宮城県社会福祉協議会からの助成金を活用しました。

Q 今後の展望についてお聞かせください。

今後は、畑に安心して集えるよう、作業の見学や休憩に活用できる環境を整えたいです。将来的には、認知症カフェとしての側面も持たせていきたいと考えています。

ボランティアさんの声

まだまだ始まったばかりの小さな畑ですが、野菜や花をたくさん植え、みんなでお茶っこ飲みを楽しみながら、集まる人たちがやさしい気持ちになれる場所になるよう盛り上げていきたいです。



▲畑作業の後は、みんなでお茶っこ飲みを楽しみます。

活動の様子は、ボランティアさんが作成に協力した動画でご覧いただけます。
(左記2次元コードから)

加美町
公式YouTube



▲加美町社会福祉協議会
今野 大さん